

近森病院附属看護学校 自己評価・学校関係者評価

(評価期間:2021年4月1日~2022年3月31日、公開年度:2022年度)

1.学校関係者評価 総評

2021年度は、新型コロナウイルスの感染拡大が第4波、そして第5波にかかる時期であり、変異ウイルスのアルファ株とデルタ株が猛威を振るった時期である。そのため本学も4月の新学期当初から完全なオンライン授業を実施せざるを得ず、実習等にも大きな不便をきたした。しかしながら、学生はもとより教職員の多大な努力によってうまくオンラインに切り替え、座学はもとより実習においても教育上の質を担保することができたと評価される。またカリキュラムの改訂や評価方法の検証、見直しなどを積極的に行い、教育の質の向上に向けた取り組みがなされている。経営管理や入試、広報、就職等においては引き続き高い水準の実績を保ち、社会貢献や教員の研究についてもコロナ禍という制約はあるものの、オンラインによって一定の成果を得ることができた。今後は卒業生のフォローアップや経営管理におけるDXの推進等が課題であり、次年度以降に向けた改善が必要と思われる。

2.自己評価 総評

2021年度は、翌年4月から始まる新カリキュラム編成に伴い、教育理念・目的、教育目標はアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーと連動し看護、看護教育、学生観を教育内容に反映することができ、新カリキュラム編成に伴いアセスメントポリシー(検証方法)を明示したことで教育の質保証に対し客観的な評価が可能となった。教育課程経営では、本校の特徴を活かし、急性期医療から在宅までの看護、チーム医療、リハビリテーション看護などの科目が設定できており、実習施設との関係性がよく、事前の打ち合わせや実習後の振り返りなど実施でき学生への教育体制が整備できた。

今後の課題として、個々の教員が授業案に基づき授業展開を図り、授業結果評価に基づいた授業の改善、学校共通の評価基準に基づいた評価の実施による教授学習過程の充実、卒業・就業・進学における卒業生の就業先の評価の実施、活動状況の分析等の実施が挙げられる。今後は、上記の課題に取り組み教育の質向上に努めたい。

3.各項目評価

評価項目	自己評価 評点	自己評価(概要・今後の課題)	学校 関係者 評点	学校関係者評価・意見
1.教育目的	4.00	教育理念・教育目的は学校指定規則に沿った内容であり整合性がある。教育理念・教育目的は、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーと連動し、看護・看護教育・学生観を教育内容に反映できている。新カリキュラム編成に伴い、基盤となる考え方を教員間での周知を図る機会とし、アセスメントポリシー(検証方法)を明示したことで教育の質保証に対して客観的な評価が可能となった。	3.85	教育理念・教育目的は学校指定規則に沿った内容であり整合性がある。教育理念・教育目的は、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーと連動し、看護・看護教育・学生観を教育内容に反映できている。新カリキュラム編成に伴い、アセスメントポリシー(検証方法)を明示したことで教育の質保証に対する客観的な評価が可能となった。教員に対する周知方法については、やや工夫が必要と考えられる。
2.教育目標	4.00	教育理念、教育目的・目標は、ディプロマポリシーに明示している人物像と具体的なカリキュラムには一貫性がある。ディプロマポリシーは、新カリキュラム構築にあたり教育目標を具現化し文言を修正した。それにより、卒業後に貢献できる看護師像が明確になった。	4.00	教育理念、教育目的・目標は、ディプロマポリシーに明示している「カ」に反映されており、実際のカリキュラムとも一貫性がある。新カリキュラムの構築にあたっては、教育目標を具現化したディプロマポリシーになるよう文言を修正した。それによって、卒業後に貢献できる看護師像が明確になった。

評価項目	自己評価 評点	自己評価(概要・今後の課題)	学校 関係者 評点	学校関係者評価・意見
3.教育課程 経営	4.00	<p>2022年度より開始となる新カリキュラムよりアセスメントポリシー(教育検証方法)を取り入れている。2021年度はその準備期間となった。また、新カリキュラム作成のため、教務会で教育理念など何度も振り返り科目の設定を行った。</p> <p>厚生労働省より提示された看護師養成所3年課程の考え方を基盤とし、1年生から3年生までの成長に応じた科目配置を行っている。</p> <p>科目設定は教育理念、および、厚生労働省より提示された看護師養成所の3年課程の考え方を基盤とし、本校の特徴を活かした内容となっている。また、本校の特徴である急性期医療から在宅までの看護、および、チーム医療、リハビリテーション看護などの科目がある。</p> <p>学習の手引きに学則・細則・履修規定を明示している。</p> <p>評価の観点については、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に沿った整理を検討した。</p> <p>非常勤講師が多く、専任教員の時間数は少なく抑えることができている。また、近森会グループでの実習の協力もあり、比較的授業準備を行う時間の確保ができている。コロナの影響でここ2～3年は厳しい現状もある。また、新カリキュラム構築に向けて教員間でディスカッションを行った影響もあり、教員の自己学習の必要性の意識が高まったのではないかと考える。</p> <p>実習施設との関係性は非常によく、実習施設は学生の学びの支援を行っている。また、実習指導者会議や実習前の打ち合わせ、実習終了時の振り替えりなどを行い学生の教育体制を整えている。</p>	4.00	<p>新カリキュラム作成に合わせ、新たなチームで一貫した教育課程展開のための活動を実施され、可視化されている。</p> <p>厚生労働省の考え方にに基づき、到達目標や学生の成長に応じた教育活動の編成ができています。</p> <p>厚生労働省の考え方および学校の教育理念に基づき、明確な根拠をもって科目・単元が構成されているとともに、附属病院の特徴を強みにした科目が構成されている。</p> <p>単元履修の方法は教員及び学生に理解しやすく可視化されている。その内容は、学生の履修支援ができるような記載の仕方である。</p> <p>単位認定の基準・方法は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当であり、単位の互換についても配慮がなされている。教育の評価に関する体制も整えられ、必要な取り組みができています。</p> <p>専門性の高い、非常勤講師が豊富で、専任教員の負担軽減が図られている。近森会グループにおいて、Up-to-dateの臨床経験も積めるため、充実した教育を受けることが出来る。</p> <p>シラバスによれば、基礎と臨床の重複の項目がどうしても避けられないが、臨地実習指導者と教員の協働体制を整え、分担をしている。臨地実習において学生が関係する事故を把握、分析して実習指導者会で提示し、対処法についても説明をおこなっている。</p>
4.教授学習 評価過程	3.74	<p>「学習の手引き」のシラバス欄に授業内容などを明示し、教育内容との一貫性を確保している。昨年度の評価で検討課題となった授業間で重複する内容につき、2022年度カリキュラム改訂に合わせて見直しを行った。全体のつながり、科目間、各授業内容の見直し、整合性の調整を行った。</p> <p>本年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染により、オンライン授業への切り替え、授業方法の変更を余儀なくされた。その中で、授業内容に応じて、授業形態を選択・工夫し、教育効果が上がるよう努力している。必要に応じてアクティブラーニングも引き続き取り入れており、主体的な学習ができるようにしている。また、自ら考え、グループで意見を出し合い、発表を行い、学びをアウトプットできるようにしている。実習では臨地の場を想定し、教員による看護師、模擬患者の実施、情報機器を駆使した模擬電子カルテによる情報収集を行い、臨地の場に行けなくても実習での臨場感が得られ、実習での学びができるよう教員総動員で関わった。しかし、タイムリーに記録の進捗状況が確認できないなど、オンライン実習による限界もあり、今後の課題である。</p>	3.79	<p>シラバスによれば、基礎と臨床の重複の項目がどうしても避けられないが、2022年度カリキュラム改訂にあわせて授業内容間の重複や整合をはかっている。発展性については、教育課程において、社会人基礎力、看護研究II等の卒業教育も視野に入れた履修項目が組まれるようになっていく。</p> <p>実習が例年通りにできないコロナ禍にあっても、模擬患者や模擬電子カルテといった新しいツールを積極的に取り入れ、教員同士が意見を出し合い、工夫されていると考える。今後は自己評価にあるように、指導技術の考え方が反映された授業案も作成されれば、なお評価できる。</p> <p>評価については、科目ごとに様々な評価方法、割合となっている。多面的な評価が実施されているといえるが、学校共通の評価基準に対する考え方などが明確に示されていない。評価の公平性についても、頂いた資料では把握できなかった。</p>

評価項目	自己評価 評点	自己評価(概要・今後の課題)	学校 関係者 評点	学校関係者評価・意見
		<p>各科目の目的および目標達成するための授業計画については、授業案の作成により、整理しつつ、意図的に授業を展開していく必要があり、今後の課題としたい。</p> <p>授業評価結果は、教員個々の授業改善のための資料として役立てるために実施しているが、評価の回収方法や各教員へのフィードバックの方法については検討中である。今後は授業評価結果を各教員あるいは学校全体としてどう活かしていくかが課題となる。</p> <p>また、学習の手引きには科目毎の達成目標やアセスメントポリシーを明示しており、学生が科目の授業や実習、学校行事などあらゆる場面で目標・ゴールを意識し、授業や実習、学校行事に取り組めるよう体制を整えている。</p> <p>成績評価に関しては、評価内容を学生に提示し、状況に応じて個別面談の機会を設けフィードバックするなど、公平かつ明瞭な評価を行っている。</p> <p>評価基準については、科目により違っている現状があるため、改善途中である。</p> <p>シラバスへ提示し、活用することで、学生の学習への動機づけとなるよう意識して支援を行っている。</p> <p>また、アドバイザーによる定期的および必要性に応じて個別面談を実施することで学生の状況把握に努め、関係性を築き、学習への動機づけと支援が図れるように対応している。</p>		<p>教育理念・目的の達成をめざし、それぞれの過程で掲げられた4つのポリシーを実現できるための学習指導計画となっている。その成果が退学率に現れている。</p>
5.経営・ 管理過程	4.00	<p>管理者である学校長は、教育理念・教育目的、教育課程経営についての考え方をパンフレットや学習の手引きに明示している。本校は管理者の考えに基づいて学校運営を行っており、開設者は学校運営会議に委員として出席しており、その会議で学校運営について確認をして頂いている。教職員は毎週発行される学校長便りや学校運営会議、教務会議での発言をもとに設置者や管理者の考えを理解している。</p> <p>組織体制での権限や役割分担は、職務分掌規程に明記している。教職員は役割分担に関わる各種委員会に参加して発言できる体制を整えている。委員会での決定事項は各委員会の議事録に残して委員に周知している。教員の任用は教員任用の考え方をもとに、教員の研修は研修計画にもとづいて行われている。</p> <p>パンフレットなどに明示している管理者の考えをもとに施設、学習・教育環境の整備を心がけている。2021年度は、新カリキュラム改定に伴い、学内Wifiネットワークを構築し、2022年度からの電子書籍稼働に備えた。</p> <p>新型コロナウイルスの感染対策で登校が出来ない場合には、オンライン授業へ切り替えて、教育が途切れない体制を構築している。</p> <p>学生が円滑な学生生活を過ごせる様に、定期的に専門業者に依頼をして学内設備の点検、補修して設備の保守維持をしている。</p> <p>社会人のニーズを踏まえ、授業料負担軽減の為に、専門実践教育訓練給付制度の</p>	4.00	<p>学校設立以来の思いや関連した項目が明確にされて整合性もあり、年数も重ねて盤石な体制になっている。</p> <p>どの様なプロセスを通じて意思決定されているか明確であり、規則等に従ってよく実施されている。</p> <p>ホームページの公開もできており、また財務情報も各手法で明確にされ、教職員にも丁寧に説明が行われている。</p> <p>学習・教育環境の整備が整っており、明確にされている。またセキュリティを意識した施設計画や安否確認の実践を伴う防災マニュアルも整備できており、益々充実した教育現場になっている。コロナ禍の中で、オンライン環境がより充実している。</p> <p>入学後の支援体制は学習面や生活面で整えられ、奨学金やその他の支援制度も多く多くの学生が利用している。コロナ禍における抗原検査の実施や、保健室の整備、学生の健康管理への配慮もなされている。その他の項目も自己評価と相違なく、自己評価は妥当と判断する。</p> <p>法人広報誌やホームページにおいて、学校内の紹介と併せてイベントやオープンキャンパスなどの活動状況も確認できる。オープンキャンパスは、コロナ禍においてオンラインでの対応も行われており、情報提供の機会を確</p>

評価項目	自己評価 評点	自己評価(概要・今後の課題)	学校 関係者 評点	学校関係者評価・意見
		<p>指定を受け、社会人学生が利用できる体制を整備している。</p> <p>入学後に学修が継続できる支援体制として教員によるアドバイザー制度を導入して、学生の学習面や生活面の相談・支援を行っている。また、臨床心理士が月2回カウンセリングも行っている。それらの支援が利用しやすい様に学習の手引きに掲載して周知している。実際の奨学金や支援制度の利用状況は全学生の3/4以上になる。</p> <p>広報活動として、毎年春に高校訪問をして学校のPRをしている。また、遠方の高校へは資料郵送をして広報活動をしている。本校の入学希望者向けには、オープンキャンパスで学校紹介をしている。</p>		保し、実践できていると判断する。その他項目も自己評価と相違ない。
6.入学・ 広報活動	4.00	<p>入学試験実施規程に基づいて入学者選抜を行っている。入学者状況については、入学試験委員会で検証して次年度の入学者選抜方法につなげている。</p> <p>毎年、広報計画をたてて、受験生確保の活動を行っている。</p> <p>パンフレットは毎年見直しを行い、更新したパンフレットを使って広報活動を行っている。パンフレットには、卒業生の就職先や進学情報も掲載している。</p> <p>オープンキャンパスでは、担当教員による入試説明、専任教員による看護技術体験、奨学金の説明には事務局が対応できる体制をとっている。</p> <p>また、オープンキャンパスに参加できない受験希望者には、個別相談会やオンラインでの説明会を行って情報提供をしている。</p>	4.00	<p>アドミッションポリシー、入学試験実施規程に則り、入学試験委員会において検討を行いながら入学者選抜を行っている。学生納付金についても妥当性を検証している。</p> <p>パンフレットの更新、オープンキャンパス、高校訪問、ホームページの活用等で適切な広報活動を実施している。個別説明やオンライン説明会の開催など、状況に応じた工夫がある。</p>
7.卒業・ 就業・進学	3.46	<p>卒業時の到達状況調査は卒業学年を対象に実施しており、今年度も5期生の集計は終了した。しかし、卒業時アンケートの作成には至っておらず、ディプロマポリシーとの整合性の評価ができていない。今後は卒業時アンケートを作成し、分析を行うことで、課題を明確にしていく。</p> <p>今年度もコロナ禍の影響で同窓会の開催や就職先の全訪問ができなかった。その中でも、同窓会役員とは連絡を取り合い、同窓会として式典に参加してもらうことで継続した関わりを行った。</p> <p>コロナ禍の影響が続き、一昨年からの課題である卒業生の活動状況や就職先との連携は進んでいない。直接訪問が難しい状況が続いているためオンライン等を活用した訪問等を検討し、就職先との連携を推し進めていく。</p>	3.31	<p>ディプロマポリシーとの整合性の評価のための「卒業時アンケートの実施」が計画されているが、自己評価で測定可能であるのか疑問が残る。</p> <p>卒業生その他との情報交換等については、コロナ禍等に拘わらず、実地以外にもオンラインを活用した方法を準備していく方法が望ましい。</p>

評価項目	自己評価 評点	自己評価(概要・今後の課題)	学校 関係者 評点	学校関係者評価・意見
8.地域社会 活動	3.86	地域社会のニーズの把握は、学校連絡会を通じた県内の教員間の連携、職業実践課程における外部委員との交流、近森会グループとの交流・連携を通じ行っている。地域への学校の情報発信は、学校ホームページやパンフレット、Instagramなど複数の手段を使い状況に応じ見直すことができています。地域社会との交流や貢献については、新カリキュラム構築を機会に、生活の場の視点を持ち教育内容に取り入れることができた。今後は、地域貢献という視点での学校づくりを行っていきたい。	3.71	地域社会とのつながりが困難な状況下で実践の機会を作り出し、活動を行っている。
9.研究	3.75	研究に関する教員の意識は高く、取り組むテーマの抽出が行えた。経験豊かな教員の配置や文献検索等の環境は整っているが、時間の保障等には課題がある。研究発表や雑誌等への投稿はできており、今後も継続して実施したい。	3.75	コロナ禍においても、研究活動が精力的に実施できている。

